

## 大館市バリアフリーマスタープラン-移動等円滑化促進方針- パブリックコメント結果

- (1)意見募集期間 令和3年1月5日(火)  
～令和3年1月25日(月)
- (2)意見提出者 41人
- (3)意見件数 96件

### 意見内訳

計画全体、市政全体に関すること	25件
道路に関すること	19件
公共交通に関すること	18件
まちづくり、施設に関すること	11件
デザイン、表現に関すること	9件
心のバリアフリー、ソフト対策に関すること	8件
除排雪に関すること	5件
交通安全に関すること	1件

【計画全体、市政全体に関わること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
1.2	<p>今回の資料を読んで、バリアフリーについてはもともと知っていたが、マスタープランという言葉について初めて知ることができた。</p> <p>マスタープランの概要を読んだところ、これからの日本にとってとても大切なものだった。今年開催予定だった東京オリンピックに向けて外国人が来やすい環境、高齢化社会となってきている日本人が暮らしやすい環境のためにも大切なものだった。</p> <p>これからの日本のためにも私たち若い世代が頑張っていくべきだとおもった。</p>	<p>本マスタープランは、少子高齢化社会に対応することはもちろん本市に関わる多様な方々が暮らしやすい環境づくりを目指しています。特に未来を担う若者等への教育啓発活動については、本マスタープランで「未来を担う若者をも巻き込んだ、心のバリアフリーの推進」を掲げているため、努めていきます。</p>
1.2	<p>「個別事業の具体化」(3P)とは何か</p>	<p>バリアフリー事業(エレベーターやスロープ設置、バリアフリー教室の開催等)について、事業内容や期間などを具体的に定めることを示しています。</p> <p>本マスタープランでは、バリアフリー化の方針を示すもので、上記のような具体的な内容を定めておりません。なお、来年度には本計画の内容も踏まえた具体的な事業計画を定める予定です。</p>
2.1	<p>バリアフリーマスタープランを読んで、しっかりと考えられていたのでもいいと思いました。また、バスの利用者人数など細かく調べられていてわかりやすかったです。計画もたくさんあったので、大館市が誰もが住みやすい場所になれるよう頑張ってください。</p>	<p>関連計画と連携を取りながら、目標としている「誰もが安全・安心・快適に暮らし、活き活きと地域とつながり、支え合う共生のまち大館」を実現できるよう、事業に取り組みます。</p>
2.1	<p>自分の想定よりも多くの外国人観光客が大館市に在住していることが分かった。</p>	<p>外国人観光客や移住者は年々上昇傾向にありますので、そういった方々への対応についても検討します。</p>
2.1	<p>観光客数の推移のグラフを見てみると明らかに平成30年から令和元年にかけて人数が2倍になっているが、観光地点別入込客数のグラフをみると、明らかな差が分かる。なので、観光地もアピールしたいことを明確にして、予算や人数削減をし、無駄を減らしていくほうがいいと思いました。</p>	<p>本市には忠犬ハチ公に代表される「秋田犬」を始め、「きりたんぼ」や「大館曲げわっぱ」等豊富な観光資源を保有しています。観光資源によって魅力を感じる観光客の方も様々です。各観光資源を磨きながら、地域活性化へ向けた取り組みを行い、より多くの観光客の方々に大館の魅力を感じていただけるよう努めていきたいと考えています。そして、観光客の方々に快適に市内を移動し、過ごしてもらうための取り組みを検討します。</p>
2.1	<p>人口減少、少子高齢化など本市の実態に応じた課題への対応、公共交通の利便性の向上、他のまちづくり政策、事業との整合、心のバリアフリーの推進などの大きな課題があるが、全てに関係していえることは、住む人利用する人事業に関わる人などもっと多くの人がいけないといけなしいといえる。</p>	<p>ご指摘のとおり、様々な課題へ対処するためには多くの方のご協力が必要となることから、本マスタープランの関連計画の他、少子高齢化や交流人口の拡大に関する市の事業とも連携を取りながらバリアフリーまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>
2.2	<p>マスタープランの大館市上位関連計画の項目を見て思ったことは大館市にとってこの11項目全部の推進が必要であると考えていますが、この中で最も優先して実行していく計画は何なのかを、またその理由等も知りたいです。</p>	<p>ご指摘のとおり、関連計画は何れも大館市にとって重要な計画です。この中で上位に位置しているのが大館市総合計画ですが、各計画は単体では実現できず、連携し合うことで実行できるものであるため、全ての計画が並行して進められることが必要です。本マスタープランも各計画それぞれの目標に関わりがあるため、連携を図りながらバリアフリーまちづくりを推進します。</p>
3.1	<p>よく利用している施設のアンケートを取ってみればよいと思う。そして、その場所までのバスを土日祝日無料などにしてみる。</p>	<p>来年度には具体的な事業計画について検討する予定であり、本マスタープランもバリアフリーまちづくりを効果的に遂行するため概ね5年での見直しを予定しています。今後も必要に応じたアンケート調査を行うことで、市民ニーズの把握に努めます。</p>
3.1	<p>積極的に高齢者や障害者など、公共交通網や施設を使う人に意見を求める機会を作るのはその人たち目線で事を運ぶのでもいいと思う。</p>	<p>また、路線バスについては事業者との協議を行い、バリアフリー化に向けた取り組みを検討していきます。</p>

3.1	<p>まち歩き点検の実施により的確に修正すべき場所がわかり、市民の声もきけるため良い政策だと思う。</p> <p>まちづくりについてのアンケート結果から、高校生、一般市民のどちらも利用頻度の高い施設を中心としたまちづくりを求めているが、観光が盛んなまち、自然との調和がとれるまちなど、大館の魅力を引き出せるようなまちづくりが重要視されていないため、その点もしっかり視野に入れてほしい。</p>	
3.2	<p>以前から車に乗っているときに道路のうねりは感じていた。車でも感じるということは高齢者が歩いたり車椅子の人が通るには厳しいということだと思う。その点からみるとまち歩き点検は普段車に乗っている人でも歩道を歩くことで新しい課題が見つけれられると良い取り組みだと思う。範囲を変えながら今後も継続的に取り組んでいってほしい。</p>	<p>まち歩き点検は様々な市民の意見を直接伺うことのできる良い機会となりましたので、来年度も目的や箇所をさらに精査し実施していきたいと考えています。また、本マスタープランの関連計画の他、官民連携を図りながら検討を進めます。</p> <p>「障害者」の表記については、障害はその人自身に帰属したのではなく、周りの環境に障害がある人という考えから、あえて現在の表記にしています。また、関連計画である大館市障害者計画と統一した表記にしています。</p>
3.2	<p>バリアフリーのものに変更する点というのは実際に障がい者(資料にて「障害者」とありましたが、「障がい者」と表記した方が良いかと思いました)の方でないと気づきにくだらうから「まち歩き」の活動は有意義化と思った。</p>	
4.2	<p>いくら行事をやっても人が集まるのは一瞬、いつでもいろんな形で遊べるところや、高齢者だけでなく未来を考えた時のために若者を対象とした活動も増やさなくてはならない。</p>	
4.2	<p>高齢化社会に対応していくために、若い世代が大館市内に残ること、進学後の就職などにより戻ってくるのが有用である。そのためには、高齢者だけではなく、若い世代に人気や活気が出てくるものを取り入れることを提案する。</p> <p>例えば、数年前まで市の中心的大町はほとんどがシャッター街として見えるため、活気がなく人気も少なく思える。秋田看護福祉大学が出来てから清水町あたりに若い人が集まることで、商業施設が集まった。大町と清水町のどちらも盛んな街作りをすることで、より若い世代からの賛同が高齢者、バリアフリーの社会に貢献できると思う。</p>	<p>本マスタープランでバリアフリー化に努めるのはもちろん、大館市都市再興基本計画での各種事業等で、中心市街地活性化をはじめとした賑わいの創出に努めます。また、バリアフリーの教育啓発活動においても、若者を巻き込んだ活動を実施していく予定です。</p>
4.2	<p>取り組みの基本方針に述べられていることをプランだけに終わらせることなく、実施していただくことを希望します。計画期間は5年ですが、街づくり全体のことなので相当長い年月(数十年?)がかかるとは思います。地道に取り組んでほしいです。</p> <p>そして、年2度程度でも取り組みの成果についての点検(街歩き等を含めて)を行えばいいと思います。成果を見る化することも大事だと思います。できれば担当市職員はあまり移動することなく、専門者になって、大館市を日本一のバリアフリー、ユニバーサルシティに導いていってくれば、市民にとって誇れる大館になるのではないのでしょうか。雪国であるため冬場は健康者でもバリアフリーの地域で、ユニバーサルシティとして他地域がうらやむ大館を目指してください。</p>	<p>本マスタープランはバリアフリー化の方針を示すものですが、来年度には具体的な事業計画も定め、より確実なバリアフリー化を目指します。また、バリアフリーまちづくりを効果的に遂行するため概ね5年後には進捗状況も踏まえて見直しを行い、バリアフリー化を進めます。</p> <p>加えて、本マスタープランを策定するために設立しましたバリアフリーまちづくり推進協議会はマスタープラン策定後も存続する予定ですので、その中で定期的に成果を協議していくことも検討しています。</p>
4.2	<p>私は人口減少という視点で意見を述べたいと思います。少子高齢化が進む原因として若い人が都会の高校や大学に進学してからそのまま地元を離れて、都会にある会社に入社してしまうケースが多いと思います。私は、バリアフリーマスタープランを作成しても大学や専門学校などの学習施設の豊かさが無い限りその地方で生まれた子供がそこで、勉強して大館に貢献する人材を目指そうとは思わないと思います。基本方針の中で高齢者に優しい街づくりを目指すということが多く書かれていたが</p> <p>高齢者に便利な街を作ってしまったらますます高齢者の割合が増えてしまい少子高齢化の改善にはつながらないと思います。ニプロハチドームや匠アリーナなどの運動する施設や土地が広いという利点が大館にはあると思います。なので、今から学生が安心して勉強できる設備や学校を建設して投資しておけば東京オリンピックが終わり必ずしも日本の経済が良くなることは考え難いので大館に優秀な人材を残して更なるイノベーションを起こせると思う。学生の数を増やすことができれば、そこでビジネスをしたいと思う企業が参戦してきてさらに地域が活性化していくと思います。まとめると、バリアフリーに特化した社会を作る中で若者の教育に特化した施設を今のうちから作っていき</p> <p>東京オリンピックとコロナウイルスで経済力が落ちた関東に見劣らないくらいの学習設備を整えてたくさんの学生を呼び込み今は苦しくとも10年後に大館に若い学生さんでにぎわいのある街を作ってほしいです。</p>	<p>若者世代も安全・快適に過ごすことができるよう、本マスタープランでは教育施設も生活関連施設に設定しており、学習・通学の利便性を確保することも念頭に置いています。また、関連計画の大館市都市再興基本計画内ではふるさとキャリア教育を実施することでまちの未来を担う人材育成にも取り組んでいます。</p> <p>ご指摘のとおり、単に高齢者に便利なまちではなく、これから社会を担っていく若い世代が、学び集い賑わいのあるまちとして大館が活性化できるようご意見を真摯に受け止め、今後のまちづくりに取り組みます。</p>

4.2	感染症対策なども織りこみ出来れば。	昨今流行している感染症もバリアの一種であり、「3密の回避」や「新しい生活様式の取り入れ」などが国からも提言されていますが、未だ先の見えない状況であり、国も対応に苦慮している段階です。バリアフリー化の促進にあたっては上記の提言も考慮には入れていきますが、国の指針がより具体的なものになり次第、適宜計画の見直しを行い、内容を盛り込んでいきたいと考えています。
4.2	キーワードのイメージが「高齢者のまち」っぽい。今は良いが、将来的には違うイメージに変えていきたい。	本市としても、バリアフリーまちづくりは年齢、障害の有無に関わらず全ての人を対象として事業を進めていきたいと考えており、そちらに見合ったものとなるよう今後も検討します。
5.1	市全体のバリアフリーを目指すためにまずは決まった区域内の一定のバリアフリー化の方向性を示すことで徐々にではあるが確実に根付くという点が良いと思った。 また、現段階で構想しているマスタープランの内容、メリット、デメリットをしっかりと確認しあいても明確なプラン構想になっている。	本マスタープランの作成にあたり、移動等円滑化促進地区の抽出条件の1つとして人口の分布状況を考慮に入れていますが、地区内外に関わらず誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、市全体のバリアフリーまちづくりも検討します。また、本マスタープランで設定した地区は地区外や他事業者へのモデル地区としての意味合いもあり、地区内で培われたノウハウ等は地区外にも積極的に波及させていくよう努めます。
5.1	弱者を守るという意味では、人口の分布にとられない計画が必要と思われる。	
5.2	内容は概ね良いと思う。コンパクトシティも兼ねるような計画が効率よい。	本マスタープランのみではカバーしきれない範囲についても、関連計画と連携することでまちづくり全体に寄与する計画の一端を担うものとなることを目指します。
6.1	バリアフリーの観点から見た大館市の現況について詳しく知ることのできる資料でした。その現況を踏まえて、これからどのように変えていくべきなのかという案も明確に書かれていて分かりやすかったです。しかし、それらをいつまでに、何を優先的に進めて住みよい街にしていきたいかが伝わってきませんでした。 私は、去年の4月から大館に来たのですが、車なしの生活をする中で、日用品などの買い物ができる店が遠く離れていて、冬季の徒歩での移動は多少疲れます。また、バスを利用するにはバス停まで少し歩かなければなりません。道中には急な坂があります。若い世代にとっては慣れればなんてことのない道路状況と距離ではあるかもしれませんが、私と置かれている状況が同じような場所に住む高齢者にとっては、きつい環境にあるように感じます。もしも、最優先する具体策がまだ定まっていないのであれば、道路環境の整備をその一候補として考えていただければ幸いです。	今後どのようにバリアフリーまちづくりを進めていくのか、スケジュール等を「6.4バリアフリーの推進に向けて」に追記します。 なお、事業の優先については来年度に具体的な検討を行っていきますが、道路などのハード面の整備はもちろん、教育啓発活動などのソフト面にも焦点を当てて多方向から検討します。
6.1	移動等円滑化促進地域内のバリアフリー化が進むと同時にその地域一体を中心拠点にすれば、障がいのない人も生活がしやすくなるかと思った。	本マスタープランでは、大館駅周辺地区、大館市役所周辺地区、扇田地区、早口地区の4箇所を移動等円滑化促進地区として設定していますが、促進地区外であっても、現在の環境や生活の利便性が損なわれるものではなく、市民に必要な行政サービス等は区域内外に関わらず提供に努め、今後とも市全体で誰もが安心・安全に暮らしやすいまちづくりに努めます。
6.1	坂道が多くて車イスでは危険が多すぎると感じる。	地形上坂道が多いのも本市独自のバリアの一つであると考えます。 今後は、まち歩き点検等により危険箇所の調査や、バリアフリーマップを活用し危険箇所の周知等、ハード整備だけでなく心のバリアフリーの推進によりソフト対策でもバリアフリー化できるよう検討します。
	余白部分も含め、全体として文章が読みやすく、バリアフリーな冊子となっていると感じた。ただ、本計画における新規調査の結果や本市独自のバリアフリーの特性等がややわかりにくい印象を持った。	今年度新たに実施したまち歩き点検や市民により作成されてバリアフリーマップの内容をより詳細に記載し、市民の方々が気づいた本市独自のバリアフリーの特性等を分かりやすくご紹介できるよう検討します。

【道路に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
3.1	道路の道幅が狭く、車とすれ違う時ギリギリの状態が危ないので、道幅を広げてほしいと思った。まちづくりに関するアンケート結果のように、どんな人でも歩きやすい整備された道路にして欲しいと思った。	<p>本マスタープランの方針である面的・一体的なバリアフリー化を実現できるよう、道路管理者と情報共有し、改善に努めます。</p> <p>また、冬期間の堆雪により幅員が確保できない件につきましては、道路パトロールをしながら適宜除排雪をするよう努めます。道路の拡幅等に関しては補償補填や用地取得を伴い難しい面もあるため、可能な範囲でバリアフリーまちづくりの推進に努めます。</p>
6.1	道に狭さが目立ち、雪道は特に狭くなり歩行者、車同士の衝突の可能性があるため、改善してほしい。	
6.1	やはり外出しようと思うには、歩道や車道の幅が広く、段差の少ないところのほうが歩きやすい、車の流れがよくなると考えられる(特に大館郵便局前や職短に続く道)。	
6.1	大館市内の道路が全体的に狭いと思う。資料より、交通手段は車という割合が多かったため、車が通りやすいようにもっと広いといいと思う。	
6.1	自家用車での移動が大半であるため、道路、特に道幅の整備に重点を置いてほしいと考えた。	
6.1	自分が高齢者になって生活してみないとわからない。交通の便がどのように不便かと聞かれても正直、調査報告書からわかること以上のことは意見することができない。そのうえで意見があるとしたら、今後バスを増やし経路を増やしたところで道路が狭く、白線のひかれていない道路が多い町での運転は事故が増えると思う。	
6.1	道路が狭いと感じる時がある。特に冬など道路脇に寄せられている雪のせいでさらに道路が狭く感じる。公共交通の利便性を向上させる際は、道路を広くして車だけでなく自転車や歩行者が移動しやすい道にして欲しい。	
3.2	バリアフリー街歩き点検のワークショップで意見の、歩道の段差や側溝に穴がある、歩道と車道の段差は実際に徒歩や自転車で移動していると気になることが多かったため改善されると安全になると思います。	<p>ご意見のとおり、道路の凸凹や段差についてはすべての人々のバリアであり、道路状況の適切な維持管理をするため、道路管理者と情報共有し、点検、修繕の実施に努めます。</p>
6.1	側溝のでかくなった穴や削れた歩行者ブロックは早めに直したほうが良いと思う。	
6.1	外出しやすいまちづくりには、私も携わりたいと思いました。特に大館の冬を徒歩で外出しようものならば困難を極めます。自動車も満足に運転することができません。道路が窪んでいたり割れていたりすると歩行者はつまずいたり、自動車は事故の元につながったりと思います。舗装を随時行うことで足のない高齢者は徒歩での外出も増えると考えます。	
6.1	私から見た大館市は、移動という面において少し不便だと感じた。18歳以下の子供たちや自動車免許を持っていない人、免許を返納した人は移動手段に自転車をよく使用していると考えられる。実際に私も買い物に行くときなど自転車を使用している。自転車に乗っていると道がかなり凹凸していると感じる。時には、バンクしたのではないかと思わせるような時もあった。道の整備に力を入れて頂きたい。	
6.1	大館市に来てから9か月ほどですが、気になる点は道路の舗装です。あまりにも凸凹な道が多いように感じます。また、マンホールが数センチ浮いていたりします。冬場では除雪が不十分に感じます。大館の方はお年寄りの方も歩く方が多いように思います。横断歩道を渡る際や、普段の道でも転びそうな方をよく見かけます。	
6.1	大館はとにかく道路の舗装がひどい。車いすどころか自転車でも走りにくく、すぐバンクする。新しく建てるのも必要だが、今あるものを治すのも大切であると思う。	
6.1	バリアフリーマスタープランと実際に大館で生活して一番不便に思うのは道路の舗装の悪さだと思う。自転車で走っていると道路のコンクリートがめくれていたり、歩道から車道を渡るときに必要な以上の段差があり、高齢者ならバランスを崩しかねないと感じた。ただでさえ大館は坂道の多く、よりそういった道路の問題点から事故が起きやすいので集中的に解決すべき問題だと思う。	

6.1	町中にまだ歩道がしかれていないところがあるので敷いてほしいと思う。(でかい伊徳の通りなど)冬場は、道路が狭くなるのでとても危ない。	
6.1	駅前や人通りの多い場所は歩道もきちんと整備されているが、人通りの少ない場所はバス停の付近でも車道ぎりぎりを歩かなければならないことがあり、歩行者も車もお互いに危険なので改善されるといいと思った。	ご意見のとおり、道路の凸凹や段差についてはすべての人々のバリアであり、道路状況の適切な維持管理をするため、道路管理者と情報共有し、点検、修繕の実施に努めます。
6.1	まち歩きで印象に残っているものの約40%が道路であった。自分自身も大館で生活をしているが、道路については時折思う節があった。高校生までは歩道が狭い、歩きにくいなど思ったが、運転免許を取得してからは、ここは歩行者と近くて危険だと道路についての不満が増えた。そのため道路についての問題は優先して解消してほしいと考えた。	
6.1	交通の面の改善は、現在の大館市ではガードフェンスが少なく感じ、歩行者目線からだととても怖く感じる。そのため、歩道と車道との境界線を作り、歩行者が安心して歩けるようにするのがよいと思う。	新たな防護柵の設置については、面的・一体的なバリアフリー化が図られるよう、現場を巡視しながら危険性の高い箇所への設置を検討します。
6.1	大館市は坂がある歩道が多いのでスロープや車椅子で移動している人もいるのでガードフェンスを増やしたりして転落防止をしたりすれば高齢者の方などが歩きやすいと思った。	

【公共交通に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
1.2	改正バリアフリー法の概要における④の施策の充実については同意見です。既存の公共交通機関にバリアフリー基準適合を義務化していくのに加え、新設されるものに対しても導入を義務化することで事後対応に追われることもなくバリアフリーによるまちづくりが円滑化すると考えられます。	法改正に伴う義務化への対応については、事業者との協議や支援を行いながら、公共交通におけるバリアフリー化も促進していきたいと考えています。
6.1	車を運転できない高校生や高齢者のために公共交通機関の整備は最優先すべき課題だと思う。電車やバスを待つ場所の整備や道路のロードヒーティングの導入も検討するべきだと思う。	ご意見のとおり、公共交通の利便性の向上は、バリアフリーまちづくりを進めるための課題の一つと考えており、本マスタープランでも公共交通の方針について掲載しているほか、関連計画である大館市地域公共交通網形成計画でも「多様な運行形態による交通手段の確保」「バス停など待合環境、乗り継ぎ環境の改善」等を施策として掲げています。ご提案いただいた内容については、今後、具体的な施策を検討する際の参考とさせていただきます。
6.1	囲いなどがなく骨組みだけのバスの停留所があるので、風が強い日、雨が降っても大丈夫なように囲みがほしい。(株式会社みちのく銀行大館支店 など)	
6.1	公共交通の利便性の向上は優先すべき課題だと思う。冬に自転車に乗る高齢者の方をよく目にする。また、学生、特に中高生は免許を取得していないのがほとんどであるため、交通手段が乏しい。また、大館に去年の4月に引っ越してきたが、夏と冬の寒暖差が非常に大きい。なので、各バス停に日よけや、風よけを充実させてほしい。	
6.1	バス停の場所がわかりにくい、待つのが大変なので待合室を作ることはやはり必要だと思う。	
6.1	もう一つは、バスの運行範囲の狭さだ。よく高齢の方が買い物袋をシルバーカーに載せて家に向かっての姿をみる。今はこれをできているが数年後にはできる体力がないかもしれない。ここで私はこの街で多くの人が利用しているスーパーである、「ITOKU」での専用バスの運行を提案します。買い物をするのを条件に運賃を無料の運行で市バスが通らないルートを走って欲しい。バスも環境を考えて水素か電気でも動くものにして頂きたい。	
6.1	車で移動する人がほとんどではあるが、学生やお年寄りなど公共交通機関を利用する人もいますので、バス等の整備は早めに進めて欲しいと思う。	
6.1	公共交通等の移動手段の充実化は高齢者や障害を持っている人、高校生以下の学生にとっては、とてもありがたいと思う。車を持っていると利用することはないとと思うが高齢者の多い大館市なら有効だと思った。	

6.1	住宅街付近にバス停を設置することによって、買い物等をする住人が増えるため、バスの収益のほか、店自体の収益も上がるため町の活性化につながると思う。	ご意見のとおり、公共交通の利便性の向上は、バリアフリーまちづくりを進めるための課題の一つと考えており、本マスタープランでも公共交通の方針について掲載しているほか、関連計画である大館市地域公共交通網形成計画でも「多様な運行形態による交通手段の確保」「バス停など待合環境、乗り継ぎ環境の改善」等を施策として掲げています。ご提案いただいた内容については、今後、具体的な施策を検討する際の参考とさせていただきますと考えています。
6.1	大館市は徒歩や自転車での移動が大変だったので公共交通機関の充実や利便性の向上はありがたいと思います。	
6.1	移動手段を増やすべきだと思う。なぜなら、バスや鉄道が増えることで普段車で移動している高齢者による交通事故を減らすことにつながると思ったからだ。	
6.1	バス停留所を住宅街付近に少し増やせば買い物等がしやすいと思った。	
6.1	立地適正化計画に伴う、市街地周辺の交通問題の解決が望まれる。	
6.1	MaaSに取り組むことは案としてありますか。今のハチ公号のオンデマンド化とか、市立扇田病院の送迎バスのオンデマンド化など、ICT活用でかなり可能になると思います。公共交通機関の行く末を心配しています。	路線バスのオンデマンド化をはじめとしたMaaSの活用も移動等円滑化を実現する施策の選択肢の一つとして想定しています。各地域の課題・ニーズの把握や事業者との協議を進めていき、より効率的に移動等円滑化を実現できるよう努めます。
6.1	バス、電車交通機関の利用が年々低下傾向にあるがそれでも高齢者が多いために運用しなければならないのが難しい所だろうと思った。	ご意見の通り、公共交通の利用者は年々減少傾向となっており、今後維持が困難になることが予想されます。現在利用している方だけでなく、免許返納等により将来利用される方の移動手段を確保するため、本マスタープランの公共交通における取り組みを実施しながら、バス事業者や市民と連携して公共交通の維持に努めます。
6.1	路線バスに関しては、市街地から離れた高齢者にはあった方がいいと思うのだが、利用者が少ない傾向にある。秋北バスでも経営が難しく市から支援してもらいながら運用している現状。観光客が来てもバスの時刻表を見てがっかりされる方も多いと思う。観光客は日常的に来ている感じではないのでイベントの時はダイヤ変更を臨機応変にして便数を増やしていったほうがいいと思う。利用する高齢者が多いスーパーや病院前は、少し数を減らして一回で乗る人を増やすといいと思う。	バス路線網の再編・統合については、関連計画である大館市地域公共交通網形成計画の中で施策の一つとしています。ご提案いただいたご意見については、バスの利用状況を踏まえ、地域住民・バス事業者の意見を伺いながら検討します。
6.1	路線バスではあまり利用されてない線はほかの線と合体して1つの線にしたほうがいいのではないかと思います。	
6.1	促進地区外のバス路線から距離があるエリアからの足を考えられれば。	公共交通空白地への対応については、様々な事業者との協議を通じて、確保できるよう努めます。

【まちづくり、施設に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
5.2	秋田県バリアフリー条例の生活関連施設より種類がすくないが、その隙間を埋める(つなげる)システムが必要。	区域内でのモデル事例を他事業者等に示すことや促進区域で培ったノウハウを徐々に広げていくことで市全体のバリアフリー化を目指します。また、本マスタープランはバリアフリー化に向けた取り組みを効果的に遂行するため概ね5年での見直しを予定しています。その際には、大館市バリアフリーまちづくり推進協議会を開催し、取り組みの進捗状況や課題の洗い出し等の状況の共有や課題の対策案を検討し、生活関連施設や生活関連経路等バリアフリー化の方針の見直しを検討します。
6.1	少し大きいコンビニを作ってイスやテーブルを配置し、一休みできるコンビニを作ってみてもいいと思う。	店舗の出店に関しては各事業者との協議によりますが、本マスタープランをはじめ関連計画との連携により魅力あるまちづくりを進めていき、様々な事業者の進出を後押しすることができるよう努めます。
6.1	ワークショップ結果全体にあった通り、車を持たない人の生活が不便でならない。歩ける範囲にお店が少なく、商店街があっても今はほとんどシャッターが閉まって、商店街の利点の「歩いてみて回る」が全くできていない。雰囲気も悪い。通常だったらテナントを入れるなど知るだろうが、商店街の建物の劣化がひどすぎてそれどころではない。少なくとも商店街だけでも新しくきれいでお店が多く立ち並ぶようになれば、「歩いてみて回る」ができ、商店街の活気が戻り、商店街が活気あふれるとその周辺にも人が行くようになると思う。	
6.1	駅周辺にカフェなどの軽食店を置けば観光客や学生等に需要があると思った。	
6.1	出歩かないのはハードだけではなく、出歩きたい目的がないから。目的になるような場所が促進地区にあるとよい。	
6.1	外出ししやすいまちづくりのために「建物(入口、階段など)や道路の段差を減らす」とありました。路面の凹凸以外には必要最低限に思います。大館駅を数回利用しましたが、段差も多いとは思いませんでした。スロープを要所に増やす必要はあるとは思いますが、重点的に改善する必要はないと思います。	バリアフリーまちづくりという観点から、誰もが利用しやすい面的・一体的なバリアフリー化を目指すため、生活関連施設だけではなく、市全体でのバリアフリーまちづくりを進めます。また、建物の段差などについては施設ごとの利用者層によっても必要性が変化してくると思っています。本マスタープランではアンケート結果やまち歩き点検の結果から対応方針等を設定しましたが、今後は他の視点からも検討を行い、必要性のある対応を行っていきけるよう努めます。
6.1	イトクショッピングセンターの入り口の床が斜めになっていて、車いすの人は便利だが、杖を使用する高齢者にとっては危険があると思った。	
6.1	バスの機能の問題や、スロープがすべて有効となるかなど必要不可欠性も問いながら計画が進められることを願う。	
6.1	少子高齢化なので高齢者でも行きやすく、利用しやすい店づくりについて考えられていたのいいと思いました。	
6.1	民間建物などのバリアフリー対策について、もっと協力してもらえるように又、もっと知ってもらえるように対策が必要。	今後も協議会をはじめ、他事業者との連携・協働を図り、周知活動を行っていきます。また、民間の事業者の施設改修等を支援するためにも、補助制度の拡充や支援体制の確保等今後検討していく内容を「6. 4バリアフリーの推進に向けて」に追記します。
6.1	特定生活関連施設と生活関連施設については、国土交通省の規定に基づき、秋田県がその内容を受けて遂行する流れになっているが、そこで問題になるのは、公的施設を除く、民間の企業や事業所には、施工時の負担が重くのしかかり、理解を得るのは現時点では大変困難な状況を踏まえ、今後の対策が必要と思われる。	

【デザイン、表現に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
1.1	P2「大館市のバリアフリーの・・・実現することは困難」という表現は将来も含めて困難という印象があるため、「活動の確保は困難」などの表現に変えた方が良いのではないかと。	読んだ方に誤解を与えないよう表現を変更します。
3.2	まち歩き点検で作成したバリアフリーマップの例は「市民が作成したバリアフリーマップ」等として作成し、本計画の第一歩としていたことが分かるよう活かしてほしい。	まち歩き点検で市民に作成いただいたバリアフリーマップについては、資料編にも掲載することで移動等円滑化促進区域との関連性を確認できるようにします。
5.1	P32の人口密度については100㎡ではなく、haではないかと。	記載内容をhaと修正します。
5.2	区域指定のための①～④の条件設定からが唐突に感じられるため、それぞれの条件の重ね図があればよい。	資料編の移動等円滑化促進区域図に各条件の記載を追加します。
5.2	生活関連経路について、国道、県道、市道等の表現が同じで分かりづらい印象を受けたため、主要道路とその他で分けるなどの対応も可能ではないかと。	本マスタープランにおける生活関連経路は、道路の種類に関わらず生活関連施設相互の経路を示すように設定しています。また図中で色分けなど区別が増えることで煩雑になるとの判断から、生活関連経路については統一しています。
5.2	市役所本庁舎については、注釈付きで新庁舎開設後の様子を反映させた表現にしてみたいかと。	本マスタープランは3月策定予定ですが、5月に新庁舎が開庁することから、新庁舎と修正します。
6.1	バリアフリー化の方針が示されているが、文章のみでややわかりにくいと、イメージ図や写真等を添付し、市民に分かりやすく伝えてほしい。	「6. 1 取り組みの基本方針」に建築物のバリアフリー事例や土地区画整理イメージ(歩道拡幅、無電柱化)等バリアフリー化に関する写真を追加します。
6.2	P45のバリアフリーマップについては、「心のバリアフリーの取り組み」よりも「移動等円滑化」全体の取り組みに加えた方が良いのではないかと。	バリアフリーマップについては、全体に関わる事業であるため「6. 1 取り組みの基本方針」に移動します。
	図やグラフ、写真等が掲載されていて見やすかった。市の課題と解決策がきれいにまとめられていて、分かりやすかった。しかし、ページ数が多く、全部見るのが大変だった。	本マスタープランは本編と資料編で構成されているため、資料編を有効に活用し、本編に重要な項目を分かりやすくまとめるように努めます。

【心のバリアフリー、ソフト対策に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
6.1	バリアフリー化を進めていくのはとても良いと思うのですがこれからどんどんお年寄りが増えていくと限界があるように感じます。なので中高年の方々が利用できるスポーツ施設などを充実させることで体が鍛えられ体の弱いお年寄りが少なくなるので将来的なバリアフリーに繋がるのではないのでしょうか。	障害のある方や高齢の方が利用しやすい施設整備を順次進めるとともに、心のバリアフリー醸成機会の提供と誰もが参加しやすいスポーツプログラムの提供により、市民の健康増進や維持により、健康寿命の延伸に努めます。
6.1	マップ情報等はスマホなどで見たい。紙ベースだけではなく、地図情報などリンクできないかと。	ICT等の先端技術の活用もバリアフリー化促進のための施策の一つとして検討しています。ご意見にある対応も必要と思われるので、マップ情報のほか公共交通の情報のバリアフリー化も含めて、検討していきます。
6.1	障害があっても自分でできることは自分でできるようになるとよい。	障害の有無にかかわらず等しく基本的人権を享有し、かけがえのない個人として尊重される社会を実現するため、本マスタープランの目標である「誰もが、安心・安全・快適に暮らし、生き活きと地域とつながり、支え合う共生のまち大館」を目指し、心のバリアフリーや教育啓発活動を通じてバリアフリーまちづくりを進められるよう努めます。

6.2	心のバリアフリーというものを初めて知った。 大館市がバリアフリーの活動に強く力を入れていることが今回分かった。建築系の仕事に就くうえでバリアフリーについて知ることは大事だと思うので、今後の活動にも目を向けていきたいと考えさせられた。	
6.2	大館で20年間生活していてなんとなく目に入っていた剥がれた点字ブロックなどを自分はいままで気にしていなかったので今回のマスタープランを読んで、お年寄りの方や障害を持った方がどのようにしたら過ごしやすい街になるのか改めて考えるきっかけになりました。このようにして市のバリアフリー活動について知るきっかけがあると一般市民の意識も変わり心のバリアフリー化につながると思います。	本市では、令和元年度から障害の特性の理解と、障害者サポーター養成を目的とした「障がい者サポーター養成講座」を開催しています。開催案内は広報にも掲載していますので、ご参加いただければ幸いです。 またこのような機会を通じて、心のバリアフリーについて、より普及するような教育啓発活動を推進します。
6.2	どのような助けが必要か知りたい。アプローチを学ぶのはとても良い。	
6.2	心のバリアフリーは若者より大人のほうがハードルが高い。先入観・こだわりなどある。若者の負担にならないように、大人にも啓もう活動が必要。	
6.2	医療関係の参考意見も欲しい。術後・病後に不自由になった方、見てわからない障害等への対応も。また、LGBT対応も含めたい。→トイレ情報必須、オストメイト、男女共用トイレなどもっと増やしていければ。	
		ご意見を頂いた通り、多様な方の意見も取り入れるよう検討します。また、ヘルプカードやヘルプマークの普及促進やバリアフリー情報の周知等の心のバリアフリーの啓発活動も推進していきます。

【除排雪に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
6.1	冬になると、雪が降るため道路の脇に雪を寄せる人がいると、道が狭くなり運転がしづらく、対向車との距離も近くなり危険なので雪の寄せ方を改善してほしい。	冬期の積雪については本市特有のバリアの一つです。本マスタープランでもきめ細やかな除雪を方針として掲げており、道路状況の適切な維持管理をするため道路管理者と情報共有し、道路パトロールをしながら適宜除排雪をするよう努めます。
6.1	寮付近の歩道に雪が降ると、交通状況が非常に混雑になり、歩道者、運転者がどちらも円滑に進むことができないため改善してほしい。	
6.1	冬季間の対策をもっと細やかに考えなければと思う。	
6.1	雪が降り積もった街を歩いていると歩道の狭さが気になった。人ひとりが通行するときは問題ないが、対面から他人が歩いてきたときにすれ違うほどの道幅の余裕がないのも不便と感じた。	
6.1	道路に関しては切実に道幅を広げるか除雪をしっかりしてほしい。冬に2車線道路の片側が雪で埋まっているのはまだ我慢できるがもともと道幅がそこまで広くない道路では両側に積もった雪のせいで車がすれ違うことができずとてもストレスを感じる。また除雪した雪が歩道に溜まって歩けなくなっている箇所がある。せめて除雪だけはしっかりとしてほしい。	

【交通安全に関すること】

該当項目	意見内容	市の考え・対応
6.1	青になったときに音が出る信号機はこれからも続けてほしいと思う。	信号機のバリアフリー化も安全な移動を確保するために重要な対策ですので、交通管理者との協議を進め、検討します。